

他誌掲載論文 (所属については論文投稿時のものを記載した。)

加工食品中の残留農薬分析及び放射線照射検知の
精度管理体制の構築に関する研究

尾花裕孝*¹ 菅原隆志*² 上野英二*³
山下浩一*⁴ 神藤正則*⁵ 久野恵子*⁶
佐々木珠生 宅間範雄*⁷

厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進
研究事業) 検査機関の信頼性確保に関する研究,
平成 25 年度総括・分担報告書, 41~79, 2014

アジアを含む諸外国では食品の殺菌等を目的に,
国内で禁止されている食品の放射線照射が実施さ
れている。香辛料等農産物については検疫所で検
査されているが, その加工食品については対象と
されていない。本研究は, 加工食品の原材料照射
の検知において, アルキルシクロブタノン類を検
知指標として選び, 照射の有無を確実に区別でき
る精度管理体制の構築を目的とする。平成 24 年度
に開発された簡便かつ精度が高い分析法を用い,
地方衛生研究所の協力を得て幅広い加工食品を用
いた外部精度管理試験が実施された。

照射履歴の判定に関して, 参加した全機関が適
正に回答した。

カンピロバクターの型別方法の検討と分離菌株
の特徴

甲斐明美*¹ 五十君静信*² 今野貴之*³
山田和弘*⁴ 田口真澄*⁵ 田内敦子
野村恭晴*⁶ 福祉山郁恵*⁷ 横山敬子*¹

厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ
等新興・再興感染症研究事業) 国内の病原体サー
ベイランスに資する機能的なラボネットワークの
強化に関する研究 平成 25 年度総括・分担研究
報告書, 33-38, 2014

7 カ所のカンピロバクターレファレンス支部セ
ンターで, 2012 年にヒトから分離された *C.*
*jejuni*265 株について Lior 法および Penner 法に
よる血清型別を実施した。その結果, Lior 法では
265 株中 213 株(80.4%), Penner 法では 260 株中
130 株(50%)が型別された。Penner 法による型別
率が低い原因を検討したところ, B 群血清の抗体
価の低い可能性が示唆された。2012 年分離のキノ
ロン耐性率は, *C. jejuni* では 47.7%, *C. coli* で
は 60%であった。EM 耐性率は *C. jejuni* では 1.1%,
C. coli では 20%であった。

*1: 大阪府立公衆衛生研究所

*2: 岩手県環境保健研究センター

*3: 愛知県衛生研究所

*4: 奈良県保健環境研究センター

*5: 堺市衛生研究所

*6: 和歌山県環境衛生研究センター

*7: 高知県衛生研究所

*1: 東京都健康安全研究センター

*2: 国立医薬品食品衛生研究所

*3: 秋田県健康環境センター

*4: 愛知県衛生研究所

*5: 大阪府立公衆衛生研究所

*6: 山口県環境保健センター

*7: 熊本県保健環境科学研究所

Evaluation of the Culture Method NIHSJ-02
Alternative to ISO 10272-1:2006 for the Detection of
Campylobacter jejuni and *Campylobacter coli* in
Chicken: Collaborative Study

Yoshika Momose*¹, Yumiko Okada*¹, Hiroshi
Asakura*¹, Tomoya Ekawa*¹, Kazuya Masuda*¹,
Hideaki Matsuoka*², Keiko Yokoyama*³, Akemi Kai*³,
Shioko Saito*⁴, Reiji Hiramatsu*⁵, Masumi Taguchi*⁶,
Katsuyuki Ishimura, Kiyoshi Tominaga*⁷, Shunsuke
Yahiro*⁸, Masahiro Fujita*⁹, Shizunobu Igimi*¹
Collaborators: K. Aikawa, N. Asai, M. Furukawa, S.
Harada, Y. Inoguchi, F. Itoh, T. Konno, M.
Matsumoto, R. Saito, M. Sato, T. Wada, K.
Yamaguchi, A. Yoshida

J. AOAC Int., 96(5), 991-997, 2013

For the surveillance of the prevalence of
Campylobacter jejuni and *Campylobacter coli* in raw
chicken products in Japan, a qualitative method,
National Institute of Health Sciences Japan
(NIHSJ)-02, was developed as an alternative to
International Organization for Standardization (ISO)
10272-1:2006. Fifteen laboratories participated;
each examined 48 minced chicken samples consisting
of test samples uninoculated, inoculated with *C.*
jejuni at a low or high level. NIHSJ-02 showed better
performance than ISO 10272-1:2006 with regard to
the selective detection of *C. jejuni* and *C. coli* in
chicken.

*1: National Institute of Health Sciences

*2: Tokyo University of Agriculture and Technology

*3: Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

*4: Akita Prefectural Research Center for Public
Health and Environment

*5: Aichi Prefectural Institute of Public Health

*6: Osaka Prefectural Institute of Public Health

*7: Yamaguchi Prefectural Institute of Public Health
and Environment

*8: Kumamoto Prefectural Institute of Public Health
and Environmental Science

*9: Gunma Meat Inspection Center

2013年に広島市で分離した腸管出血性大腸菌
O26(VT1産生)株の分子疫学的解析による検討

田内敦子 児玉 実 築地裕美
佐多俊子 石村勝之

厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ
等新興・再興感染症研究事業)病原体解析手法の高
度化による効率的な食品由来感染症探知システム
の構築に関する研究 平成25年度総括・研究分担
報告書, 133-137, 2014

2013年に広島市で発生した腸管出血性大腸菌
O26(VT1産生)感染症事例9件11株について、分
子疫学的解析法であるパルスフィールドゲル電気
泳動法(PFGE)を実施し、事例間での疫学的関連性
について検討した。その結果、いくつかの事例で
疫学的関連性が疑われたが、感染経路の特定には
至らなかった。またPFGEとは異なる分子疫学的解
析手法である Multi-locus variable-number
tandem repeat analysis (MLVA)を実施し、その解
析結果を比較したところ、PFGEで類似度が高い菌
株はMLVAでも結果が一致しており、O26のMLVA
がPFGEと同程度の型別能を有し、集団事例内や散
発事例間での疫学的関連性を迅速に検討する材料
となる可能性が示唆されたが、今後さらなるデー
タの集積が必要である。

市販生カキからの胃腸炎ウイルス検出状況

山本美和子 田中智之* 田中寛子

藤井慶樹 京塚明美 石村勝之

厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進
研究事業)食品の病原ウイルスの検出法に関する
研究 平成25年度総括・研究分担報告書, 153-160,
2014

2013年2月に購入した市販生カキ5ロットにつ
いて胃腸炎ウイルスの検索を行った。その結果、
ノロウイルスが最も多く、4ロットから検出され
た。次いでアストロウイルスが3ロット、サポウ
ウイルスが2ロット、アデノウイルスが1ロットか
ら検出された。

ノロウイルスGII/4が検出された株は、すべて
GII/4 Sydney 2012変異株であった。

*: 堺市衛生研究所